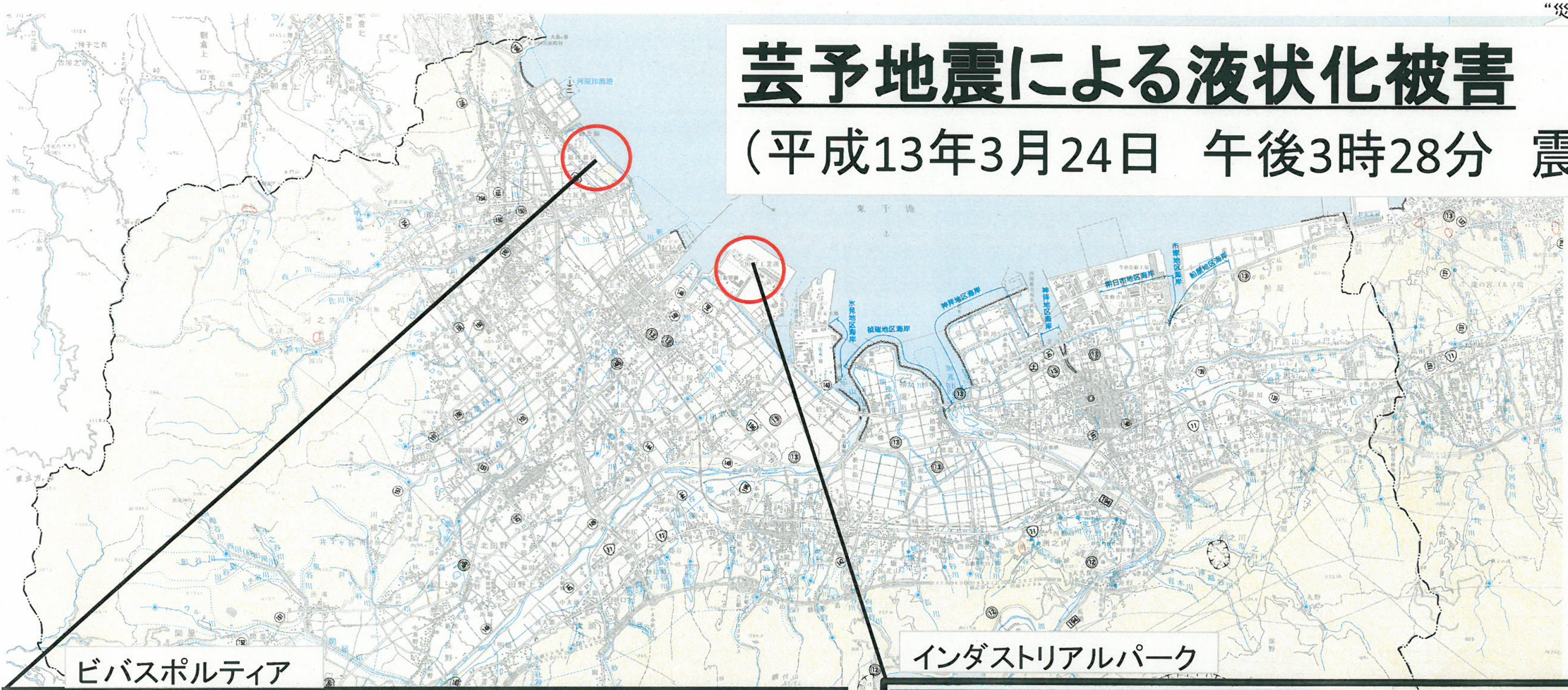
西条市防災対策研究協議会
市民作業部会　資料一覧表（H25.5.22現在）

No.	区分	資料内容	頁
1	5 災害履歴	芸予地震による液状化被害	5 － 1
2		過去の地震災害記録	5 - 2
3		過去の災害履歴（S51～H元）	5 - 3
4		同上（H2～H16）	5 - 4
5		西条市自然災害（震災・風水害）年表（明4～大元）	5 - 5
6		同上（大4～昭51）	5 - 6
7		同上（昭54～平16）	5 - 7
8		阪神・淡路大震災及び東日本大震災の犠牲者の死亡原因	5 - 8
			-
			-

芸予地震による液状化被害

（平成13年3月24日　午後3時28分　震度5）



過去の地震災害記録

四国災害アーカイブスより

NO.	年	月日	マグニチュード	被害状況	地区名	出典
1	1533年 (天文2年)			地震と高潮により、新居郡洲之内村字矢倉下にあった橘神宮神社が潰没し、同年今の地に遷宮した。(「伊予温故録(橘新宮神社記」による)	西条	伊方町誌編集委員会編「伊方町誌」(伊方町、1968年)、60頁
2	1586年 (天正14年)		M7.9	文禄4年(1595)の「周敷郡吉田郷弘江村坪付帳」によると、塩入地6反、日焼地1町2反、荒地10町2反など全耕地の30%が収穫なしと記されているが、この地震の後遺症ではないかと推察される。	東予	東予市誌編さん委員会編「東予市誌」(東予市、1987年)、450-451頁
3	1595年 (文禄4年)	7月		文禄4年、震災のため、周桑郡北条村(現壬生川町)にあった鶴岡八幡神社の社殿が悉く陥没した。(「伊予温故録(鶴岡八幡神社記録)」による)	東予	伊方町誌編集委員会編「伊方町誌」(伊方町、1968年)、60頁
4	1596年 (文禄5年)		M7.0	大地震が発生し、広江村の「密林山徳蔵寺由来記」によると、徳蔵寺があった場所は地震のため地盤地下して低湿地になったため、土地の高燥な現在地に集団移転したことを伝えている。また、「多賀村郷土誌」の鶴岡八幡神社の項でも、震災のため宮殿、宝蔵、神器、記録などが地中に陥没したため、現在地に遷座して社殿を復旧したと記している。この2つの記録から、広江、北条など海岸近くの場所では、地が裂けたり、地盤沈下の被害が大きかったことがうかがえる。	東予	東予市誌編さん委員会編「東予市誌」(東予市、1987年)、451頁
5	1614年 (慶長19年)	10月25日 (旧暦)		大震災の時、海上荒れて大波打ち来たり、田畑や人家が流失し、人も多く死んだ。その荒れた果て土地を領主加藤嘉明の命によって奉行徳本三郎兵衛が開墾したのが三津屋である。(「多賀村郷土誌」による)また、この地震で道後温泉の湧出が止まったことを「松山叢談」、「伊予温故録」が記している。	東予	東予市誌編さん委員会編「東予市誌」(東予市、1987年)、451-453頁
6	1649年 (慶安2年)		M6.6	慶安2年(1649)、M6.6の大地震。(「災害の歴史」、「愛媛社会経済年表」、その他郷土資料による)	東予	東予市誌編さん委員会編「東予市誌」(東予市、1987年)、452頁
7	1685年 (貞亨2年)			貞亨2年(1685)、大地震、道後の湯が止まった。(「田野村誌」等による)	丹原	丹原町誌編さん委員会編「丹原町誌」(丹原町、1991年)、42頁
8	1707年 (宝永4年)		M8.4	宝永4年(1707)、M8.4の大地震があった。東予地方の家や人畜の被害は不明であるが、当時広く造成されていた新田は、地盤沈下と堤防の痛みによって大きな被害を受け、中には壊滅した新田もあった。大明神川河口方面でも、地震と高潮の被害により、左岸の高須と樋ノ口に住んでいた二戸が六反地に移住したと伝えられている。この地震後、地盤沈下と高潮を防ぐために、広江川河口や三津屋港付近では、堤防の嵩上げ工事や石垣に改修する工事が行われた記録がある。	東予	東予市誌編さん委員会編「東予市誌」(東予市、1987年)、452-453頁
9	1812年 (文化9年)			文化9年(1812)、地震。(「田野村誌」等による)	丹原	丹原町誌編さん委員会編「丹原町誌」(丹原町、1991年)、43頁
10	1849年 (嘉永2年)			嘉永2年(1849)、地震。(「田野村誌」等による)	丹原	丹原町誌編さん委員会編「丹原町誌」(丹原町、1991年)、44頁
11	1854年 (嘉永7年)	11月4日		嘉永7年(1854)11月4日、やや強い地震が起き、翌5日に伊予にとって未曾有の大地震に襲われた。「寅歳の大地震」と呼ばれた。余震は約3ヶ月間続いた。高鴨神社神主の日記には、小松町の恵比須宮の鳥居が倒れ、玉之江村南の春宮の鳥居もなびいたことなど、地震から約3ヶ月間の様子が記されている。(「御神用並公私向之日記」による)また、藩内では、子どもの怪我があったほかは、人畜の被害はなかったが、建物などの被害は甚大であった。被害は新居郡内で比較的少なく、周布郡内で多かった。	小松	小松町誌編さん委員会編「小松町誌」(小松町、1992年)、591-595頁
12	1855年 (安政2年)			安政2年(1855)、地震数回。(「田野村誌」等による)	丹原	丹原町誌編さん委員会編「丹原町誌」(丹原町、1991年)、44頁
13	1855年 (安政2年)			安政2年(1855)、地震。(「災害の歴史」、「愛媛社会経済年表」、その他郷土資料による)	東予	東予市誌編さん委員会編「東予市誌」(東予市、1987年)、452頁
14	1857年 (安政4年)		M6.4	安政4年(1857)、M6.4の地震。(「災害の歴史」、「愛媛社会経済年表」、その他郷土資料による)	東予	東予市誌編さん委員会編「東予市誌」(東予市、1987年)、452頁
15	1860年 (万延元年)	11月4日		万延元年(1860)11月4日朝四ツ時、大地震。5日七ツ時、大地震、夜度々震動、野辺に小屋掛け、7日より家に帰った。(「田野村誌」等による)	丹原	万延元年(1860)11月4日朝四ツ時、大地震。5日七ツ時、大地震、夜度々震動、野辺に小屋掛け、7日より家に帰った。(「田野村誌」等による)
16	1905年 (明治38年)	6月		明治38年(1905)6月、地震。	東予	東予市誌編さん委員会編「東予市誌」(東予市、1987年)、32頁
17	1909年 (明治42年)			明治42年(1909)、安芸灘地震。	小松	小松町誌編さん委員会編「小松町誌」(小松町、1992年)、62頁
18	1916年 (大正5年)	8月6日		大正5年(1916)8月6日、地震。	東予	多賀郷土誌委員会編「多賀郷土誌」(多賀郷土誌委員会、2004年)、18頁
19	1920年 (大正9年)	4月18日		大正9年(1920)4月18日、四坂島付近を震源とする地震。	東予	多賀郷土誌委員会編「多賀郷土誌」(多賀郷土誌委員会、2004年)、18頁
20	1937年 (昭和12年)	2月27日		昭和12年(1937)2月27日、安芸灘で地震。	東予	東予市誌編さん委員会編「東予市誌」(東予市、1987年)、32頁
21	1946年 (昭和21年)	12月21日		昭和21年(1946)12月21日午前4時19分、推定震度6以上の大地震が発生した。壬生川町内の被害は以下のとおりである。死者7人、負傷者9人、家屋の全壊21戸、半壊65戸のほか、道路や河川・海岸堤防は至る所で被害が出た。また、この地震で地盤が沈下し、高潮のたびに堤防を越えて海水が浸入することになった。	東予	壬生川郷土史研究委員会編「壬生川郷土史」(壬生川郷土史研究委員会、2009年)、74-76頁
	1946年 (昭和21年)	12月21日		昭和21年(1946)12月21日午前4時19分、和歌山県沖の熊野灘でM8.1の大地震が発生し、各地に大きな被害をもたらした。東予市域でも、壬生川町で死者5人、負傷者15人、全壊半壊家屋570戸、国安村で死者4人、負傷者10人、全壊半壊家屋84戸をはじめ、多くの被害を出した。この地震で四国全体に地殻変動が起こり、燧灘に面する東予地方は80～100cm地盤が沈下した。地盤沈下により、飲料水や水田への塩分の浸透、豪雨・高潮時の浸水が引き起こされた。このため、地盤沈下対策事業が実施された。	東予	東予市誌編さん委員会編「東予市誌」(東予市、1987年)、33頁及び36-37頁
22	1968年 (昭和43年)	4月1日		昭和43年(1968)4月1日、日向灘地震。	東予	多賀郷土誌委員会編「多賀郷土誌」(多賀郷土誌委員会、2004年)、20頁
23	1968年 (昭和43年)	8月6日		昭和43年(1968)8月6日、宇和島湾で地震。	東予	多賀郷土誌委員会編「多賀郷土誌」(多賀郷土誌委員会、2004年)、20頁
24	2001年 (平成13年)	3月24日 15時28分		芸予地震が起こった。東予市では、北条新田地区を中心に住宅約500棟の屋根瓦が崩落し、ブロック塀のひび割れや損壊は100箇所に及んだ。また、墓石、燈籠などの倒壊のほか、海岸地帯では液状化現象が現れた。	東予	多賀郷土誌委員会編「多賀郷土誌」(多賀郷土誌委員会、2004年)、20頁及び22頁

○過去の災害履歴

1　西条市における主な気象災害

年月日	異常気象名	被害等の概要
S51. 9. 8 ～13	台風17号	○最大風速（西条消防署）19.5m／秒（13日14時40分・WSW） ○降雨量　西条消防署868.6mm　東之川1,223.5mm　藤之石1,758.0mm 丹原742mm　成就社1,160mm ○1時間最大雨量（藤之石）　13日　4時～5時　63.0mm ○被害状況　死者1人、住家全壊9棟・半壊17棟、床上浸水542棟 一部破損34棟、床下浸水6,693棟、河川104箇所、道路損壊106箇所、 山（崖）くずれ54箇所、橋梁損壊　8箇所、田畑流出・埋没7ha、 田畑冠水1,350.3ha、地すべり26箇所 ○被害額　西条1,840,477千円　東予2,873,733千円　丹原3,135,169千円 小松1,178,408千円　旧東予市・旧丹原町で災害救助適用
S54. 6. 26 ～7. 4	梅雨前線に伴う降雨	○降雨量　西条消防署294.3mm　東之川344.0mm　藤之石343.0mm 丹原361mm　成就社433mm ○1時間最大雨量（西条消防署）　6月27日　15時～16時　23.0mm ○被害状況　床上浸水5棟、床下浸水230棟、水田冠水750ha、 道路損壊43箇所、橋梁損壊1箇所 ○被害額　西条272,258千円　東予148,500千円　丹原290,390千円 小松122,300千円
S54. 9. 30 ～10. 1	台風16号	○最大風速（西条消防署）　24.0m／秒（30日18時40分・N） ○降雨量　西条消防署114.9mm　東之川346.0mm　藤之石346.0mm 丹原97mm　成就社279mm ○1時間最大雨量（大平）　30日　18時～19時　85.0mm ○被害状況　軽傷1人、住家半壊2棟・住家一部破損1棟、 床下浸水50棟、道路損壊20箇所、橋梁2箇所、河川1箇所 ○被害額　西条331,408千円　東予39,310千円　丹原69,403千円 小松30,480千円
S54. 10. 18 ～19	台風20号	○最大風速（西条消防署）9.0m／秒（19日9時35分・WSW） ○降雨量　西条消防署330.1mm　東之川461.0mm　藤之石479.0mm 丹原282mm　成就社423mm ○1時間最大雨量（東之川）　18日　22時～23時　51.0mm ○被害状況　床上浸水45棟、床下浸水1,133棟、田畑冠水718ha、 道路53箇所、橋梁2箇所、河川24箇所、崖崩れ1箇所 ○避難状況　里山・峯地区2世帯7人が一時避難 ○被害額　西条475,650千円　東予203,088千円　丹原47,383千円 小松90,358千円
S55. 9. 9 ～11	台風13号	○最大風速（西条消防署）28.6m／秒（11日14時20分・SSE） ○降雨量　西条消防署192.4mm　東之川548.0mm　藤之石643.0mm 丹原176mm　成就社273mm ○1時間最大雨量（藤之石）　11日　11時～12時　45.0mm ○被害状況　死者2人、住家全壊1棟、家屋一部破損1棟、 床下浸水69棟、河川3箇所、道路35箇所、農業用施設12箇所、 山地崩壊2.8ha、林道6箇所、田畑冠水170ha ○被害額　西条512,778千円　東予213,088千円　小松70,455千円
S56. 2. 25 ～3. 1	寒波及び雪害	○気象 ℃ ／ 25日 ／ 26日 ／ 27日 ／ 28日 ／ 3月1日 最低気温 ／ −2.0 ／ −5.7 ／ −7.5 ／ −3.2 ／ −0.1 最高気温 ／ 4.3 ／ −0.4 ／ 3.3 ／ 5.7 ／ 4.1 ○3月1日の積雪　平坦部8.5cm、山間部20cm（推定） ○被害状況 野菜類（ほうれんそう・いちご等）面積130ha、減収110t 農林施設　豚舎1箇所、しいたけハウス1箇所 林業関係　林産物・立木50ha、2万本 ○被害額　西条57,422千円　小松10,500千円
S57. 8. 26 ～27	台風13号	○最大風速（西条消防署）23.7m／秒（27日9時5分・SE） ○降雨量　西条消防署73.1mm　東之川503.0mm　藤之石535.0mm 丹原82mm　成就社533mm ○1時間最大雨量（藤之石）　27日　8時～9時　54.0mm ○被害状況　一銭橋流出、山間部市道損壊18箇所、床下浸水41棟、 林道3箇所、野菜860ha、農業用施設2箇所 ○被害額　西条357,047千円　東予1,500千円　小松11,850千円
S57. 9. 22 ～25	台風19号	○最大風速（西条消防署）32.8m／秒（25日0時29分・ENE） ○降雨量　西条消防署180.3mm　東之川354.0mm　藤之石353.0mm 丹原225mm　成就社307mm ○1時間最大雨量（藤之石）　25日　3時～4時　49.0mm ○被害状況　床下浸水146棟、池・水路・農道など34箇所 市道・河川・橋など15箇所、野菜・桑 ○被害額　西条283,649千円　東予185,322千円　丹原774,263千円 小松234,474千円
S62. 10. 15 ～17	台風19号	○最大風速（西条消防署）　22.0m／秒（16日18時10分・NE） ○降雨量　西条消防署313.0mm　東之川472.0mm　藤之石458.0mm 丹原254mm　成就社336mm ○1時間最大雨量（藤之石）　17日　0時～1時　63.0mm ○被害状況　床上浸水19棟、床下浸水1,119棟、厚生施設関係3箇所 農作物1,593ha、農業施設関係156箇所、林業施設関係30箇所、 土木施設関係102箇所 ○被害額　西条1,389,944千円　東予476,359千円　丹原607,721千円　小 松718,825千円
H元. 8. 26 ～27	台風17号	○最大風速（西条消防署）25.5m／秒（27日5時15分・NE） ○降雨量　西条消防署210.9mm　東之川430.0mm　藤之石396.0mm 丹原137mm　成就社345mm ○1時間最大雨量（東之川）　27日　6時～7時　57.0mm ○被害状況　床下浸水92棟、田畑冠水477ha、農業用道路58箇所、 林道80箇所、河川4箇所、市道30箇所 ○被害額　西条395,382千円　東予42,135千円　丹原78,238千円 小松125,860千円

年月日	異常気象名	被害等の概要
H2．9．17 ～20	台風19号	○最大風速（西条消防署）　23.5m／秒（19日13時20分・NNE） ○降雨量　西条消防署347.9mm　東之川582.0mm　藤之石703.0mm 丹原260mm　成就社535mm ○１時間最大雨量（黒瀬ダム）　19日　13時～14時　50.0mm ○被害状況　床上浸水１棟、床下浸水90棟、停電400戸、 観光施設１箇所、農作物440.3ha、農業用施設37箇所、林道21箇所 河川１箇所、市道17箇所、文教施設１箇所 ○被害額　西条250,736千円　東予115,635千円　丹原200,532千円 小松137,899千円
H4．8．7 ～9	台風10号	○最大風速（西条消防署）　25.8m／秒（８日17時30分・S） ○降雨量　西条消防署105.3mm　東之川250.0mm　藤之石391.0mm 丹原56mm　成就社334mm ○１時間最大雨量（東之川）　８日　12時～13時　58.0mm ○被害状況　農業施設関係58箇所、農作物1,115.3ha、 農業用施設２箇所、山地崩壊0.15ha、林道２箇所、市道19箇所、 文教施設５箇所 ○被害額　西条206,942千円　東予63,385千円　丹原36,639千円
H5．8．9 ～10	台風７号	○最大風速（西条消防署）　20.8m／秒（10日４時20分・SE） ○降雨量　西条消防署97.5mm　東之川422.0mm　藤之石519.0mm 丹原56mm　成就社384mm ○１時間最大雨量（藤之石）　10日　６時～７時　56.0mm ○被害状況　農作物44.9ha、市道４箇所、 加茂川河川敷広場表土流失 ○被害額　西条123,241千円
H9．9．14 ～17	台風19号	○最大風速（西条消防署）　29.5m／秒（16日14時50分・NE） ○降雨量　西条消防署180.5mm　東之川462.0mm　藤之石488.0mm 丹原155mm　成就社422mm ○１時間最大雨量（藤之石）　16日　17時～18時　69.0mm ○被害状況　床上浸水１棟、床下浸水42棟、崖崩れ１箇所、 農地流失埋没0.99ha、農業用施設３箇所、林道２箇所、 市道32箇所、加茂川河川敷広場表土流失 ○被害額　西条94,200千円　東予85,435千円
H10．10．17 ～18	台風10号	○最大風速（西条消防署）　22.2m／秒(SW) ○降雨量　丹原284mm（３日間330.5mm）　成就社360mm ○１時間最大雨量　丹原50mm ○被害状況　全壊１棟、床上浸水42棟、床下浸水1,119棟、 崖崩れ１箇所、農作物18ha、農地流失埋没1.12ha、 農業施設20箇所、林道13箇所、市道20箇所 ○被害額　西条94,140千円　東予448,710千円　丹原164,650千円
H11．9．14 ～15	台風16号	○最大風速（西条消防署）　18.0m／秒（15日６：30・NW） ○降雨量　西条消防署184.0mm　東之川277.0mm　藤之石363.0mm 丹原140mm　成就社318mm ○１時間最大雨量（黒瀬ダム）15日5時～6時　111.0mm（成就社）127mm ○被害状況　一部破損１棟、床上浸水28棟、床下浸水285棟、

年月日	異常気象名	被害等の概要
		崖崩れ12箇所、農作物２ha、漁船３艘、漁具1,000反、 農地流出埋没3.75ha、農業施設53箇所、林地４箇所、 林道63箇所、立木10.7ha、市道47箇所、橋梁３箇所、河川４箇所、 砂防５箇所 ○被害額　西条1,120,171千円　丹原613,021千円
H16．8．30	台風16号	○降水量：平野部116.5mm（西条消防署）、山間部437mm（藤之石） ○最大瞬間風速：46.2m／秒（西条消防署）・最大風速23.0 m／秒(ESE) ○被害状況　軽症者１人、一部破損３棟、床下浸水１棟、 公共建物９棟、その他非住家１棟、文教施設９棟、道路54箇所 ○被害額　西条313,435千円　東予159,164千円　小松19,637千円
H16．9．6 ～7	台風18号	○降水量：平野部85.5mm（西条消防署）、山間部464mm（東之川） ○最大瞬間風速：37.8m／秒（西条消防署）・最大風速17.9 m／秒(SSE) ○被害状況　床下浸水41棟、崖崩れ１箇所、農作物５ha、 農地流出埋没1.12ha、農業施設３箇所、林道１箇所、市道20箇所 ○被害額　西条157,196千円　東予60,213千円　小松103,922千円
H16．9．29 新西条市合計	台風21号	○降雨量：平野部257.0mm（西条消防署）、山間部442.0mm（黒瀬ダム） ○１時間最大雨量：29日16～17時　黒瀬ダム150.0mm、 西条消防署75.5mm、丹原53mm ○被害状況　死者５人、重傷２人、住家全壊23棟、半壊91棟、 床上浸水489棟、一部破損８棟、床下浸水2,121棟、 公共建物被害１棟、その他非住家被害40棟、農地流出埋没11.0ha、 文教施設６箇所、道路187箇所、橋梁５箇所、河川24箇所、 崖崩れ58箇所、鉄道１箇所 ○被害額　5,954,645千円
H16．10．19 ～20 新西条市合計	台風23号	○降雨量：平野部330.5mm（西条消防署）、山間部556mm（東之川） ○１時間最大雨量：20日　12時～13時　52.0mm（東之川）、 西条消防署34mm、丹原31mm ○被害状況　床上浸水33棟、一部破損１棟、床下浸水311棟、 農地流出埋没0.5ha、道路23箇所、河川19箇所、清掃施設１箇所 ○被害額　563,128千円

参考　　西条市自然災害（震災・風水害）年表

※西条市防災100年誌の自然災害年表及び地域防災計画資料編から抜粋したもので、表現を変えているところがあります。

（西）は旧西条、（東）は旧東予、（丹）は旧丹原、（小）は旧小松

年号		時期不明	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1871	明治4年	大洪水、加茂川左岸堤防6箇所計103間越し切れ						（西） 6/30～7/7 大暴風、河川の被害甚大				（東） 旦之上、実報寺、福成寺ちくで堤防決壊。土石流83町3反、300間堰流失等18ヶ所の被害		
1884	明治17年									（東） 8/26 大明神川下川原堤防400間決壊、1町歩が荒地となる。7町歩は一時浸水・被害戸数90戸。 9/24 大明神川決壊 （丹） 8/26 風水害で徳能庵のカヤ掛杉倒木。				
1885	明治18年	（東） 近年稀なる大雨で川原切れ人家流失。 （丹） 西の川原（関屋川）上野から長野まで切れ込み、成松から岸の下まで出水人家2～3戸流失									（東） 9/24 大風雨、大明神川堤防決壊			
1886	明治19年	（東） 実報寺地区で風害、家屋1棟倒壊。 （丹） 大風雨、関屋川切れ込み、田野小学校校舎破損大									（小） 9/10 台風、河川決壊			
1888	明治21年										（東） 9/11 大明神川堤防300間決壊、被害戸数50戸 （丹） 関屋川決壊			
1890	明治23年	（西） 八丁新開の堤防決壊、海水侵入 （丹） 霖雨、高松川切れ込み、人家3戸流出1戸半壊												
1891	明治24年	（西） 豪雨、諸川増水被害多大 （東） 大雨、洪水中山川2箇所決壊 （丹） 金毘羅橋2箇所流失										（丹） 初旬、暴風雨、5戸倒家、死者有		
1893	明治26年											（西） 10/14 台風により禎瑞、神拝地域の堤防大壊滅。明治天皇の命により片岡侍従慰問に来県 （東） 10/4 大明神川600間決壊、新開海岸堤防決壊、被害地65町歩 （丹） 10/14 全壊家屋2戸、破損家屋1戸、浸水家屋36戸、耕地流失140町歩、堤防決壊1600間水路破壊33ヶ所、道路破損350間余、橋梁4ヶ所。 （小） 10/14 台風被害甚大		
1895	明治28年	（東・丹） 中山川決壊。田畑の被害甚大								（小） 8/25 暴風雨、洪水、中山川決壊。田畑の被害甚大				
1898	明治31年	（東） 大明神川堤防300間決壊。 被害地5町歩、被害戸数50戸												
1899	明治32年									8/28 暴風雨 （西） 加茂荒川山で死者51名、家屋の流失60戸。西之川山では山崩れ、西之川鉱山で小屋が多数埋没。 （東） 中山川氾濫 （丹） 中山川氾濫、鞍瀬川増水で明河小学校運動場流失。 （小） 中山川氾濫				
1905	明治38年									（西） 多雨により稲作の被害甚大 （東） 大明神川堤防25間決壊 （丹） 中山川出水。堰3ヶ所流失、来見橋流失 （小） 8/15～17 暴風雨、妙谷川橋流失。中山川決壊し家屋流失、周桑平野1000町歩が湖水となる。				
1906	明治39年									（東） 大明神川堤防25間が決壊。 吉田土手決壊し家屋（8棟）流失				
1912	大正元年										9/21～23 台風 （西） 渦井川、加茂川大出水西条町では床上浸水無数、竹之巷では船で避難 （東） 中山川100m決壊、流出家屋28戸、田畑流失10ha （丹）（小） 中山川堤防決壊			

5-5

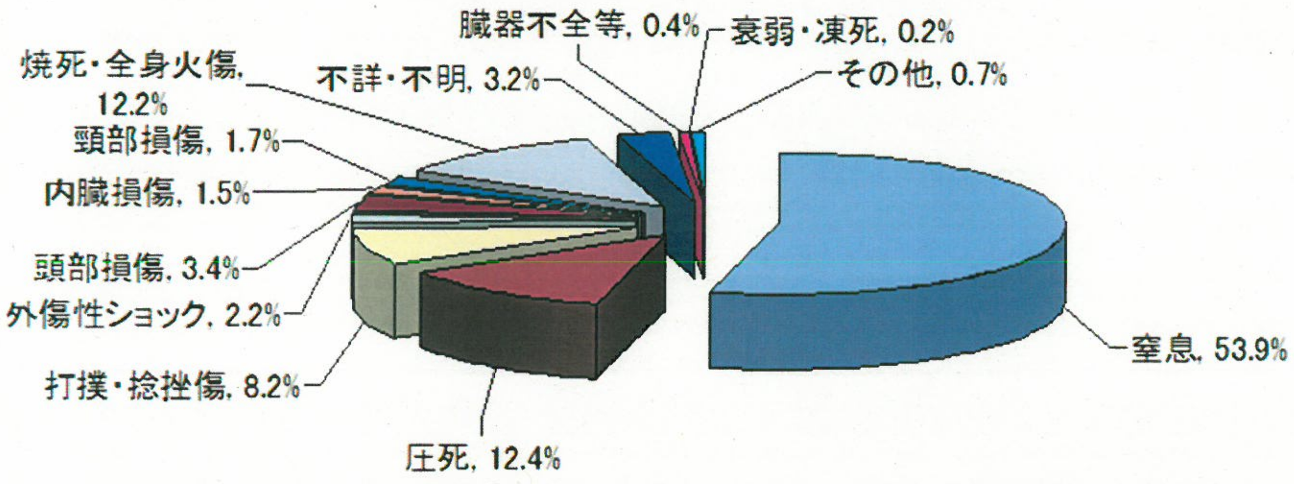
年号		時期不明	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1915	大正4年										(西) 高潮被害有 (東) 蛭子(旧西条)の太平新開決壊、蛭子・今在家は浸水 (小) 9/8 中山川下流が決壊	(丹) 10/8 高松堤防135間決壊。稲作被害甚大。		
1918	大正7年								台風 (西) 浸水被害、市塚付近はわずかに屋根が見えた。加茂川橋一部陥落。 (東) 中山川、関屋川、高松川決壊。流失家屋17戸、田畑何町歩も浸水。 (丹) 中山川、関屋川、高松川決壊。田畑1町17反に被害		(東) 台風、暴風雨、洪水の大被害有 (丹) 9/24 石経関の土手役75間決壊。浸水家屋13戸、畑約2町歩埋没。明河小学校浸水、傾斜する。			
1919	大正9年	(東) 郡道大頭線東西土手決壊、田畑流失。 (丹) 郡道大頭線東西土手決壊、畑5反流失。												
1927	昭和2年									(西) 雷雨性の豪雨。加茂川氾濫、流失倒壊家屋多数。				
1928	昭和3年									(西) 台風により海岸堤防破損。				
1931	昭和6年											(西) 台風により漁船流失、護岸堤防破損。		
1934	昭和9年										9/2 風水害 (丹) 養蚕5割減、果樹6割減。 9/21 室戸台風 (西) 加茂川大出水、家屋浸水多数。 (東) 稲作被害甚大 (小) 稲作被害甚大			
1941	昭和16年							6/25～6/29 台風 (丹) 半壊家屋10戸、明河小学校床上浸水		(西) 暴風雨により田冠水の被害多数				
1945	昭和20年										9/17 枕崎台風 (西) 稲は早稲の外全滅 (丹) 釜の口堰45間流失	10/10～11日 阿久根台風 (丹) 高松川尻決壊、川根の村林道100m流失、高松橋大破、西山川尻決壊。		
1946	昭和21年	※12/21 南海地震												12/21 南海地震 (西) 死者1名 (東) 死者9名(壬生川5名・国安4名)。 壬生川・吉井地区大被害
1950	昭和25年										9/3 ジェーン台風 (東) 広江川堤防決壊。今在家、近江床下浸水。フェーン現象のため特に稲作大被害。 (丹) 釜の口堰南側流失			
1951	昭和26年								7/1 ケイト台風 (丹) 関屋川(3ヶ所)、中山川上流堤防決壊			10/14 ルース台風 (西) 伊曽乃神社鳥居折損 (丹) 家屋、水稲、果樹等被害甚大		
1953	昭和28年							6/7 台風2号 (丹) 高松川堤防2ヶ所決壊、橋梁崩落。			9/25 台風13号 (丹) 高松川、関屋川堤防決壊			
1954	昭和29年										9/13 台風12号 (東) 水稲大被害 9/25～26日 台風15号 (丹) 水稲大被害、千原山一部崩壊			
1955	昭和30年										9/30 台風22号 (東) 水稲大被害	10/3 台風23号 (東)(丹) 水稲、果樹大被害		
1957	昭和32年										9/6 台風10号 (西) 戻川橋流失、田畑大被害			
1968	昭和43年					4/1 日向灘地震 (西) 4，400戸停電								
1972	昭和47年								7/24 台風9号 (小) 石鎚地区の桑園被害					
1974	昭和49年								7/6 豪雨 (小) 小松高校の運動場一部崩壊					
1975	昭和50年									8/17 台風5号 (東) 市街地床下浸水 8/22 台風6号 (東) 小規模山崩れ6ヶ所	9/8 台風18号 (小) 山間部道路一部崩壊			
1976	昭和51年										9/8～13日 台風17号 (西) 死者1名、家屋倒壊9戸、床上浸水542戸、床下浸水6，696棟、早川決壊、河川・道路被害甚大 (東) 浸水家屋2，933戸、山崩れ、道路崩壊、孤立集落続出。 (小) 住宅半壊1棟、一部破損9棟、床下浸水250世帯			

年号		時期不明	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1979	昭和54年							6/26～7/4 梅雨前線による降雨 (西) 家屋半壊2棟、床下浸水50棟 (東) 床上床下浸水127戸			9/30～10/1 台風16号 軽傷1名、住宅半壊2棟、破損1棟、床下浸水50棟、道路、橋梁等に被害	10/18～19日 台風20号 (西) 床上浸水45棟、床下浸水1，133棟、田畑冠水718ha、道路・河川・橋梁に被害多数 (東) 床上・床下浸水243戸、農作物、耕地、林道等に被害甚大 (小) 住宅一部破損1棟、床下浸水17棟、道路、農産物等に被害		
1980	昭和55年										9/10～11日 台風13号 (東) 河川氾濫、床下浸水14戸 (小) 石鎚地区で落石2名死亡。道路、農産物に大被害	10/14 台風19号 (小) 大谷川堤防に被害		
1982	昭和57年									8/26～27 台風13号 一銭橋流失、床下浸水41棟、山間部市道・林道損壊	9/24～25日 台風19号 (小) 大谷川堤防決壊。 床下浸水146棟、市道・農道・河川・橋等に被害			
1983	昭和58年										9/27～28日 台風10号 (小) 農道・林道の崩壊			
1987	昭和62年											10/15～17日 台風19号 (東) 浸水家屋300戸 (小) 妙谷川が越水3世帯に避難命令。床上床下浸水発生。		
1989	平成元年									8/26～27 台風17号 床下浸水92棟、田畑冠水477ha、市道・林道・河川等に被害				
1990	平成2年									8/17 集中豪雨 (東) 中小河川氾濫、床下浸水6世帯	9/18～19日 台風19号 (西) 床上浸水1棟、床下浸水90棟、農業施設、林道、河川に被害 (東) 農業用施設倒壊、農作物被害 (小) 田畑流失、道路・公共施設等被害			
1991	平成3年										9/30 秋雨前線 (東) 河之内路側ブロック180㎡崩壊			
1992	平成4年									8/8 台風10号 (西) 農業用倉庫、市道、林道被害				
1993	平成5年	(小) 梅雨前線による集中豪雨で家屋1軒半壊									9/3～4日 台風13号 (東) 床下浸水39世帯、水路決壊、林道・道路・路肩崩壊、家屋一部破損等大被害			
1996	平成8年									8/14 台風12号 (東) 公共施設、農業用施設、農作物等被害				
1997	平成9年										9/16 台風19号 (西) 床上浸水1棟、床下浸水42棟 農業用施設、市道、林道に被害 加茂川河川敷表土流失			
1998	平成10年											10/17～18日 台風10号 (西) 全壊1棟、床上浸水42棟、床下浸水1，119棟、農業用施設、市道、林道に被害 (小) 半壊1棟、床上浸水11棟		
1999	平成11年										9/15 台風16号 (西) 床上浸水28棟、床下浸水285棟、農業用施設、市道、林道、橋梁に被害 (小) 床下浸水27棟			
2000	平成12年	※10/6 13:30 鳥取県西部地震 震度3(全域)												
2001	平成13年	※3/24 15:27 芸予地震 震度5弱(西・小) 震度5強(丹)												
2004	平成16年									8/30 台風16号 軽症3名、一部損壊3棟	9/6～7 台風18号 床下浸水41棟 9/29～30 台風21号 死者5名、重症2名、全壊23棟、半壊91棟、一部破損8棟、床上浸水489棟、床下浸水2，121棟 10/19～20 台風23号 一部損壊1棟、床上浸水33棟、床下浸水331棟			

阪神・淡路大震災及び東日本大震災の犠牲者の死亡原因

阪神・淡路大震災の犠牲者の死亡原因
（神戸市）

神戸市の死亡者の死因調査結果
死者　4，571人
死者の約58％を60歳以上が占める。

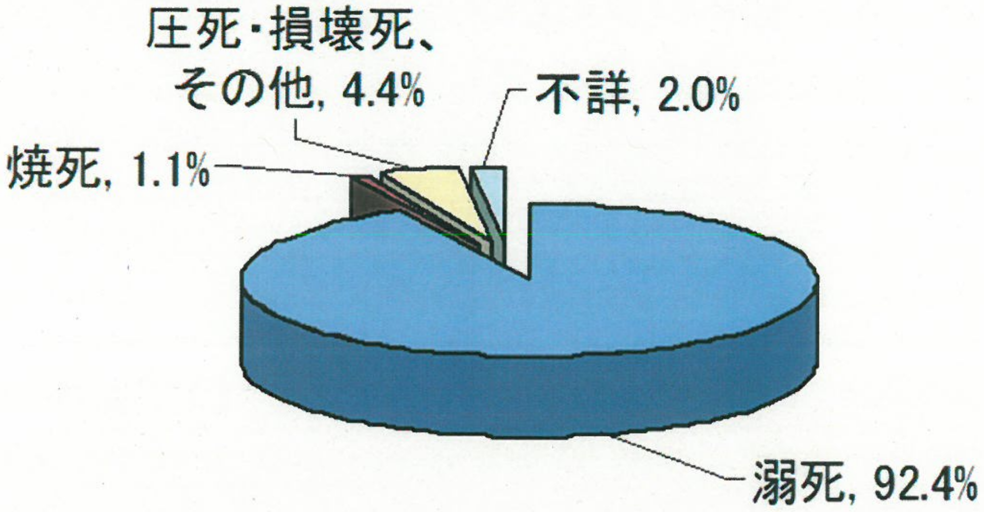


死亡原因の調査結果から、圧倒的に多いのが、呼吸ができなくなった「窒息死」が全体の53．9％。次が、多臓器不全などにつながる「圧死」で12．4％。その他を含め建物若しくは家具が原因による犠牲者が全体の83．3％。火災現場で発見された12．2％の人たちは、生きている状態で火事に襲われたことが分かっている。（兵庫県監察医Gpの調査から）

家屋の耐震化および家具の転倒防止が重要

東日本大震災の犠牲者の死亡原因
（岩手県、宮城県、福島県）

岩手県、宮城県、福島県の死亡者の死因調査結果
死者　15，270人（平成24年5月30日時点）
死者の65％を60歳以上が占める。
（60歳以上の人口比約31％）



死亡死因の調査結果から、圧倒的に多いのが「溺死」で全体の92.4％。津波から逃れられなくて、津波に呑まれたことを意味する。速やかな避難が求められる。特に、高齢者の避難について備えておかねばならない。

津波からは、早く・高く逃げること　津波は待ってくれない！